

令和7年度 霧島ジオパーク推進連絡協議会 定例総会

日時:令和7年5月26日(月)15:30~

会場:都城グリーンホテル 本館

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) パートナーシップ協定締結について

4 協議事項

【議案第1号】役員改選について(会長・副会長)(P1 参照)

【議案第2号】協議会規約改正について(P2~5 参照)

【議案第3号】令和6年度事業報告について(P6~20 参照)

【議案第4号】令和6年度収支決算及び監査報告について(P21~25 参照)

【議案第5号】令和7年度事業計画(案)について(P26~30 参照)

【議案第6号】令和7年度収支予算(案)について(P31~36 参照)

5 その他

6 閉会

霧島ジオパーク推進連絡協議会の役員改選について

霧島ジオパーク推進連絡協議会規約第5条の規定により、第4条に定める下記役員が2年の任期を迎えるにあたり、「役員改選について」を議題とする。

協議会役員	氏名	任期(2年)
会長	中重 真一 (霧島市長)	令和7年5月26日
副会長	池田 宜永 (都城市長)	令和7年5月26日

※任期満了日は、総会日で変動する取扱いとしています。

■参考資料

～霧島ジオパーク推進連絡協議会規約抜粋～ 第4条、第5条関係

<p>(役員)</p> <p>第4条 協議会に次の役員を置く。</p> <p>(1) 会長 1名</p> <p>(2) 副会長 1名</p> <p>(3) 監事 2名</p> <p>2 役員は、総会において会員の互選により選出する。</p> <p>3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。</p> <p>4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。</p> <p>5 監事は、協議会の会計及び会務を監査する。</p> <p>(役員任期)</p> <p>第5条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。</p> <p>2 役員は、その任期が満了した場合でも、後任者が就任するまでの間は、引き続きその職務を行う。</p> <p>3 欠員補充のため選任された役員任期は、前任者の残任期間とする。</p>

～その他役員任期一覧～

協議会役員	氏名	任期(2年)
監事	川野 利光 ((一財)自然公園財団えびの支部・高千穂河原支部 所長)	令和8年5月20日
監事	徳重 克彦 ((公社)霧島市観光協会 会長)	令和8年5月20日

霧島ジオパーク推進連絡協議会の規約の改正について

【改正理由】

会員等の名称変更により頻繁に別表の規約改正が必要であることから、別表を別に定めるものです。

○協議会の会員を別に定める

霧島ジオパーク推進連絡協議会規約の一部を次のように改める。

第3条第1項中「別表の」を「別に定める」に改める。

「別表」及び「参考」を削除。

附 則

この規約は、令和7年5月 日から施行する。

霧島ジオパーク推進連絡協議会規約（案）

（設置）

第1条 環霧島地域の美しい地質遺産を、地域住民、行政等が連携して保護・研究し、教育的活用やジオツーリズムの場として利用できる環境整備を行うことにより、地域社会の活性化に寄与することを目的として、霧島ジオパーク推進連絡協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（事業）

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 環霧島地域における自然保護に関する事業
- (2) 環霧島地域における地質学的、生態学的調査研究に関する事業
- (3) 環霧島地域の有するジオパーク資産を利用した教育啓発及び観光に関する事業
- (4) 上記事業を達成するための地域連携や情報発信等に関する事業
- (5) その他、目的を達成するために必要な事業

（会員）

第3条 協議会の会員は、別に定めるとおりとする。

2 会長は、入会しようとする者が協議会の目的に賛同し、活動及び事業に協力できると認めるときは、入会を承認し、次の総会に報告するものとする。

（役員）

第4条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 監事 2名

2 役員は、総会において会員の互選により選出する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

5 監事は、協議会の会計及び会務を監査する。

（役員任期）

第5条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員は、その任期が満了した場合でも、後任者が就任するまでの間は、引き続きその職務を行う。

3 欠員補充のため選任された役員任期は、前任者の残任期間とする。

（顧問）

第6条 協議会に顧問を置くことができる。

2 顧問は、会長が委嘱し、次の総会に報告するものとする。

3 顧問は、協議会に対し必要に応じて助言を行う。

（学術委員）

第7条 協議会に学術委員を置くことができる。

2 学術委員は、会長が委嘱し、次の総会に報告するものとする。

3 学術委員は、協議会に対し必要に応じて助言を行う。

(会議)

第8条 協議会の会議は、総会及び幹事会とする。

(総会)

第9条 総会は、定例総会及び臨時総会とする。

2 定例総会は、毎年1回、臨時総会は、必要に応じ開催する。

3 総会は、会長が招集し、会長が議長となる。

4 総会は、会員の2分の1以上の出席(委任状を含む)がなければ開くことができない。

5 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

6 総会は、次の事項を審議し、議決する。

(1) 規約の制定又は変更

(2) 事業計画及び収支予算の承認

(3) 事業報告及び収支決算の承認

(4) その他幹事会において必要と認めた事項

(幹事会)

第10条 幹事会は、協議会の運営について具体的な検討を行い、次の事項を審議する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) その他会長において必要と認めた事項

2 幹事会の構成及び運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮りこれを定める。

(専門部会)

第11条 専門部会は、ジオパークの活動について、その必要性に応じ事業を計画し実施する。

2 専門部会の構成及び運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(会計)

第12条 協議会の経費は、環霧島地域の市町の負担金及びその他の収入をもって充てる。

2 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第13条 協議会の事務を処理するため、協議会に事務局を置く。

2 事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(委任)

第14条 この規約に定めるもののほか、協議会の会務の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規約は、平成20年10月14日から施行する。

(会計年度)

2 第10条の規定は、平成21年度から適用する。

附 則

この規約は、平成22年10月13日から施行する。

附 則

この規約は、平成28年4月11日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年5月31日から施行する。

附 則

この規約は、令和4年4月28日から施行する。

附 則

この規約は、令和5年5月11日から施行する。

附 則

この規約は、令和6年5月21日から施行する。

附 則

この規約は、令和7年5月 日から施行する。

別表

削除

参考

削除

令和6年度霧島ジオパーク推進連絡協議会事業報告

令和6年度は、構成5市2町の行政、民間団体等と連携し、ジオの魅力・特性を活かした観光の推進、防災意識の高揚、郷土愛の醸成を図る取り組みなど、多種多様な事業を展開した。

また、アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムへ参加し、「まち歩きで地域の災害レジリエンスを高める取り組み」の発表などにより、ネットワーク活動への貢献に関する取り組みを行った。

以下、令和6年度事業（後援事業や協力事業も含む）の主なものを項目ごとに整理した。

1 協議会運営等に関する取組



各種会議は、定例総会1回、幹事会3回、専門部会4回（写真左）、オンライン定例ミーティング11回、オンライン座談会5回を開催し、エリア拡大認定時に受けた課題解決に繋がる取り組み等についての協議やジオパークの理念等を共有し、持続可能な地域社会づくりに向けての意見交換などを行った。

また、令和5年10月から開始された構成自治体から事務局への職員派遣（小林市、えびの市）により、これまで以上の構成自治体との連携と事務局体制の強化が図られた。

その他、今後ユネスコ世界ジオパークを目指す上で必要とされること等について、運営主体の幹事及び自治体担当者の共通理解を図ることを目的とした視察研修を阿蘇ユネスコ世界ジオパークで行った（写真右）。

<定例総会・幹事会等>

月日	分類	内容	場所	参加者
5/14	主催	第1回幹事会兼ワーキング会議	霧島市(霧島市役所)	24名
5/21	主催	霧島ジオパーク推進連絡協議会定例総会	霧島市(霧島市役所)	67名
9/27	主催	第2回幹事会兼ワーキング会議	霧島市(霧島市役所)	21名
10/8 ~9	主催	阿蘇ユネスコ世界ジオパーク視察 (国立阿蘇青少年自然の家、阿蘇火山博物館、熊本地震災災ミュージアムKIOKU、新阿蘇展望所ヨ・ミュール、数鹿流崩之碑展望所)	熊本県阿蘇市 他	18名
3/18	主催	第3回幹事会兼ワーキング会議	霧島市(霧島市役所)	22名

<専門部会>

月日	分類	内容	場所	参加者
7/9	主催	第1回教育部会(副読本等制作検討、教職員研修 他)	霧島市(霧島市役所)	29名

7/9	主催	第1回観光部会(来訪者動向調査結果報告 他)	霧島市(霧島市役所)	32名
10/29	主催	第1回防災部会(自然災害伝承碑活用事例の共有 他)	霧島市(霧島市役所)	24名
2/12	主催	第1回保全部会(保全活動の事例共有 他)	霧島市(霧島市役所)	24名

2 調査・研究に関する取組



10月28日に「アウトドア観光における共生モデルの研究」の一環として、霧島ジオパークにおけるユニバーサルツーリズムの実態調査への協力を行った(写真:車椅子に補助器具を装着しての運搬実証)。また、それらの調査を基に「霧島ジオパークにおける車椅子を使ったツーリズムを考える研修会(PII記載)」を開催した。

3月15日には、霧島ジオパーク学術研究発表会を開催した。これは、令和3年度から開始した学術研究支援補助事業であり、霧島ジオパークに関する学術的根拠に基づく資料の蓄積及び、研究活動の活性化を図ることを目的としている。今年度は、5件の研究活動が行われ大変貴重な研究成果の発表であった。

<学術研究内容>

- 始良カルデラ形成噴火に先立つ大規模噴火の推移復元に向けた地質学的研究

研究者:西原 歩(常葉大学社会環境学部 講師)

- 加久藤火砕流堆積物の分布と水文地質構造との関係についての研究

研究者:新地 青空(大阪公立大学理学研究科 博士課程前期1年)

- 霧島地域の水に関わる特殊地形及び地形発達過程に係る研究

研究者:高嶋 洋(第一工科大学工学部 教授)

- 「霧島ジオパーク」大隅地域に伝わる巨人伝説と文化遺産についての研究

~柳田國男の『ダイダラ坊の足跡』をテキストにして弥五郎どん伝説を読み解く~

研究者:西嶋 啓一郎(第一工科大学工学部 教授)

- 本邦最南端、高千穂峰のアースハンモック

研究者:朝日 克彦(宮崎産業経営大学法学部 准教授)

月日	分類	内容	場所
4/19	協力	横川町湧水調査(第一工科大学、佐世保工業高等専門学校)	霧島市(大出水)
8/25	参加	日本観光学会九州・沖縄支部研究大会	鹿児島市(鹿児島大学)
10/28	協力	「アウトドア観光における共生モデルの研究」実態調査(山口大学、霧島ジオパークUDフォーラム)	えびの市(えびの高原)
3/15	主催	霧島ジオパーク学術研究発表会(32名参加)	オンライン

3 保全に関する取組



6月22日に近自然工法による登山道整備ワークショップが高原町で開催された。講師の阿蘇山道整備・阿蘇ユネスコ世界ジオパークの渡邊氏から「人が歩きやすくするための整備ではなく、自然環境の底辺の生態系を守るためにすることが大事である。」ことを参加者と共有した(写真左)。

また、2月26日には協議会主催により霧島の自然保護を考えるワークショップを開催し、「自然保護は目的により取り得る方法は変わる。目的を共有することがまずは重要である」ことを参加者へ伝えた(写真右)。

月日	分類	内容	場所
4/13	後援	高千穂河原トレイルメンテナンスデイ①(主催:霧島市観光協会)	霧島市(高千穂河原周辺)
6/22	参加	天孫降臨コース登山道整備ワークショップ(主催:奥霧島皇子原ヒュッテ)	高原町(皇子原公園)
8/8	参加	ノカイドウ保全対策連絡会(主催:鹿児島県)	えびの市(えびの高原)
8/11	後援	高千穂河原トレイルメンテナンスデイ②(主催:霧島市観光協会) (山の日イベント霧島トレイル Picnic90)	霧島市(高千穂河原周辺)
11/9	参加	高千穂河原の登山道保全活動(主催:株伊藤園)	霧島市(高千穂河原周辺)
11/13	協力	ひなもり台トレッキング(主催:宮崎県ひなもり台県民ふれあいの森)	小林市(ひなもり台)
11/30	後援	いまさら聞けない登山装備のあれこれ(主催:霧島市観光協会)	霧島市(高千穂河原周辺)
12/4 ~5	参加	登山道修繕作業(主催:環境省)	えびの市(えびの高原)
1/22	連携	登山道セミナー・ワークショップ(主催:環境省)	えびの市(えびのエコミュージアムセンター)
2/19	参加	大浪池登山口のアクセス等に係る意見交換会(主催:環境省)	えびの市(飯野地区コミュニティセンター)
2/26	主催	霧島の自然保護を考えるワークショップ	えびの市(えびの高原)

4 教育に関する取組



8月4日に主催事業である夏休み子ども火山スクールを高原町の皇子原公園で開催した(写真左)。

出前講座は小学校5件(138名)、中学校2件(162名)、高校1件(299名)、自治会等1件(20名)実施し、野外活動(小・中学校登山等)へのガイド派遣は、小学校7件(382名)、中学校2件(91名)であった。また、ジオパーク学習支援の取り組みとして、副読本等製作委員会を立ち上げ補助教材製作に向けた協議を開始した。

今年度より宮崎県立都城泉ヶ丘高校が文科省のSSH*に指定(5年間)された。同校は既に霧島ジオパークを題材としたいくつかの研究がおこなわれており、また、その運営指導委員に協議会事務局専門員が委嘱され、フィールドワークでの現地案内や研究発表会での助言など連携した取り組みを行っている(写真右)。

*スーパーサイエンスハイスクール(SSH):文科省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度。霧島ジオパーク管内では他に鹿児島県立国分高等学校が指定(2018~)。

月日	分類	内容	場所
4/24	協力	国分高校理数科2年課題研究計画発表会	鹿児島県立国分高等学校
5/30	協力	都城泉ヶ丘高校理数科1年サイエンス研修	金御岳、関之尾滝、溝ノロ洞穴 他
6/1	協力	みりよく発見!!霧島ジオパーク(主催:宮崎県御池青少年自然の家)	ひなもり台県民ふれあいの森
7/5	協力	第1回都城泉ヶ丘高校SSH運営指導委員会	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校
7/26	協力	国分高校理数科1年サイエンス研修	宮坂貝塚、大出水の湧水 他
7/31	主催	ふるさとの山霧島山研修会(教職員23名参加)	霧島東神社、狭野神社 他
8/4	主催	夏休み子ども火山スクール(23名参加)	皇子原公園レストハウス
9/10	協力	宮崎県北諸県地方連絡協議会職場等訪問研修会	えびのエコミュージアムセンター
9/27	協力	第1回国分高校SSH運営指導委員会	鹿児島県立国分高等学校
10/1~31	主催	霧島ジオパーク作品展	高千穂河原ビジターセンター
10/7	主催	第1回霧島ジオパーク副読本等製作委員会	霧島市役所
11/15	協力	国分高校普通科1年サイエンス研修	宮坂貝塚、大出水の湧水 他
12/2~1/26	主催	霧島ジオパーク作品展	えびのエコミュージアムセンター
12/3	主催	第2回霧島ジオパーク副読本等製作委員会	霧島市役所
12/11	協力	国分高校 SSH 中間研究発表会	鹿児島県立国分高等学校
1/31	協力	国分高校SSH学習成果発表会 第2回国分高校SSH運営指導委員会	第一工科大学
2/3~2/5	参加	鹿児島県四地区合同教育旅行セールス	近畿地方

2/7	協力	都城泉ヶ丘高校SSH学習成果発表会 第2回都城泉ヶ丘高校SSH運営指導委員会	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校
2/12	主催	第3回霧島ジオパーク副読本等製作委員会	霧島市役所

5 防災に関する取組



11月15日に当協議会顧問の井村隆介氏を講師に招き、霧島市で火山勉強会を実施した。これは、霧島ジオパークの自然保護、教育、観光、防災等の分野の関係者及び桜島・錦江湾ジオパークの関係者を対象とし、霧島山をはじめとした周辺の火山について学んだ。大穴持神社では敷地内にある堤塘竣工記念碑等の伝承碑から「桜島大正噴火」、「ルース台風」による被害の様子などを、中茶屋公園では桜島や錦江湾など目の前に広がる風景から周辺地形の成り立ちなどを、また、福山黒酢の製造には気候風土が深く関係していることなどについて関係者と共有した(写真左)。

2月22日に宮崎県御池青少年自然の家で開催された「御池防災スプリングフェスタ」に参加し、子ども達を対象としたワークショップを行った。霧島山の立体模型に溶岩流に見立てたココア水を落とし、流れる様子と地形との関係などを観察し、もし噴火が起こったらどこに向かって、どのように逃げればよいか、考えるきっかけを与えることができた(写真右)。

月日	分類	内容	場所／開催方式	参加者
8/26	参加	「火山防災の日」制定記念イベント(主催:内閣府)	オンライン	—
10/2	参加	えびの高原(硫黄山)火山防災訓練(主催:えびの市基地・防災対策課)	えびの市(えびの高原・えびの市役所)	35名 (12機関)
11/15	主催	火山勉強会 2024	霧島市	19名
12/24	主催	霧島ジオパーク山岳遭難対策連絡会 (旧環霧島山岳遭難対策連絡会)	霧島市	23名
1/24	参加	高千穂河原避難誘導訓練(主催:霧島市安心安全課)	霧島市(高千穂河原)	26名
1/24	後援	新燃岳を考える日 霧島ジオパーク講演会「霧島山と南海トラフ巨大地震」(主催:高原町)	高原町(高原町総合保健福祉センターほほえみ館)	120名
2/19	参加	霧島連山利用対策連絡会議(オブザーバー)	えびの市(飯野地区コミュニティセンター)	34名
2/22	参加	御池防災スプリングフェスタ(主催:宮崎県御池青少年自然の家)	都城市(宮崎県御池青少年自然の家)	120名
3/14	参加	霧島山火山防災協議会関係機関会議	オンライン	72名

6 ジオツーリズムに関する取組



4月21日に霧島市の天降川河口周辺において、「湿地の生き物の観察ツアー」を開催した。これは、エリア拡大により広がった海域（沿岸部）のサイトを活用した取り組みであり、当日は、野鳥観察等を通じて生態系や環境保全に対する理解を深めた（写真左）。

12月16日には、障害や年齢などに関係なく誰もが楽しむことができる観光「ユニバーサルツーリズム」について考える研修会をえびの高原（つつじヶ丘遊歩道など）で開催した。商工観光、教育施設関係者の参加のもと、補助装置「JINRIKI」を装着した車椅子や近距離モビリティ「ウィル」（電動車いす）を試乗し、課題や導入の可能性を探った（写真右）。

月日	分類	内容	場所	参加者
4/21	主催	湿地の生き物観察ツアー	霧島市（天降川河口周辺）	12名
4/27	共催	きりしま歴史散歩「ノカイドウ自生地を歩く」	えびの市（えびの高原）	11名
5/18	後援	霧島ジオパーク・ウォーキング（主催：曾於市観光協会、曾於市、都城観光協会、都城市）	曾於市・都城市（大川原キャンプ場～関之尾の滝）	35名
6/14	参加	「どんな人でも楽しめる国立公園づくり講習会～ユニバーサルとは？～」（主催：環境省）	始良市（重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム）	16名
7/6	協賛	霧島錦江湾国立公園霧島地区パークボランティア研修会（主催：環境省）	霧島市（高千穂河原）	10名
8/20	後援	霧島酒造工場見学ツアー（主催：都城市）	都城市（焼酎の里 霧島ファクトリーガーデン）	51名
9/12	参加	「どんな人でも楽しめる国立公園づくり講習会～ユニバーサルビーチ体験会～」（主催：環境省）	始良市（重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム）	16名
10/3	参加	「どんな人でも楽しめる国立公園づくり講習会～障害のある子どもが安心して活動を楽しめるために心がけていること～」（主催：環境省）	始良市（重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム）	16名
10/30	参加	霧島錦江湾国立公園のストーリーの活用における意見交換会 第1回（主催：環境省）	えびの市（えびのエコミュージアムセンター）	24名
11/4	後援	高千穂峰登山「山の日イベント・オウジノオニワ」（主催：奥霧島温泉郷株式会社 事務局：講師対応）	高原町（天孫降臨コース）	21名
11/14	参加	「どんな人でも楽しめる国立公園づくり講習会～ユニバーサルツーリズムとは？～」（主催：環境省）	始良市（重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム）	16名

11/24	後援	曾於市悠久の森ウォーキング大会（主催：曾於市悠久の森ウォーキング大会実行委員会）	曾於市（悠久の森⇄大川原峡キャンプ場）	800名
11/28	参加	霧島錦江湾国立公園のストーリーの活用における意見交換会 第2回（主催：環境省）	えびの市（えびのエコミュージアムセンター）	16名
12/16	主催	霧島ジオパークにおける車椅子を使ったツーリズムを考える研修会	えびの市（えびの高原周辺）	28名
2/9	後援	島津義弘公バスツアー、講演会（主催：ファーストジャパン株式会社 共催：えびの市観光協会）	えびの市（市内一円、えびの市文化センター）	ツ：20名 講：100名
2/20	参加	えびの高原におけるウェルネスツーリズムセミナー（主催：えびの市、えびの市観光協会）	えびの市（えびの市役所）	30名
2/24	共催	霧島ジオパークフェスティバル in YOKOGAWA（主催：NPO法人霧島ジオパーク友の会）	霧島市（横川正丸屋）	20名

7 ジオガイドのスキルアップ等に関する取組



ジオガイドのスキルアップを図るために、霧島ジオガイドネットワークの活動を支援した。研修は、各市町のサイトを活用して行われ、それぞれ地元ガイドが案内するなどお互いのスキルアップに繋がった（写真左：般若寺の供養塔）。

また、10月10日にガイド団体（えびのガイドクラブ）からの要望により、コーラを使った火山噴火実験の講習を行った。今後、ガイド団体が対応される小学校の出前講座などで活用される（写真右）。

<霧島ジオガイドネットワーク例会・研修>

月日	分類	内容	場所
4/21	協力	第1回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修：「野外救急対応講習」講師：霧島市消防局北消防署	霧島市（鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター）
6/16	協力	第2回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修：「サイト巡り～ジオとくらし・風景～」案内：湧水自動車会	湧水町（般若寺の供養塔、真中馬場田の神、三日月池）
8/18	協力	第3回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修：「サイト巡り～ジオと産業～」案内：曾於市ガイド・ボランティア	曾於市（上鶴橋、大川原の田の神、高之峯、花房峡）
10/10	主催	コーラの噴火実験講習（出前講座対応講習） 講師：協議会事務局専門員	えびの市（京町温泉駅観光交流センター）
10/20	協力	第4回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修：「サイト巡り～ジオとくらし・風景～」案内：奥村健一郎氏（霧島ジオガイド養成講座アドバイザー）他	小林市（岩瀬川公園、大塚原公園）えびの市（えびの地震記念碑、矢岳高原）

11/17	協力	霧島ジオガイドネットワーク交流登山	宮崎市(鰐塚山)
12/15	協力	第5回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修:「サイト巡り～ジオとくらし・風景～」 案内:関之尾むかえびとの会 他	高原町(越の華立、霞神社) 都城市(関之尾滝、庄内まち巡り)
1/19	協力	第6回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修:「サイト巡り～地形とくらし～」 案内:協議会事務局専門員 他	霧島市(国分岩戸の露頭、 上野原テクノパーク展望所)
2/22	協力	第7回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修:霧島市街めぐり川筋直し・やさしい日本語 講師:中村真由美 氏	霧島市(国分市街地 他)
3/16	協力	第8回霧島ジオガイドネットワーク例会 研修:自然公園法 講師:靄田奈津希 氏(環境省国立公園管理官)	えびの市(えびのエコミュージアムセンター)

8 普及啓発に関する取組



普及啓発に関しては、宮崎県4市町が主催するイベントに「360°動画で見る霧島連山 VR映像体験コーナー」のブースを設け、ガイドの案内で霧島ジオパークの魅力を発信した。また、構成自治体による講演会やイベント等を後援したほか、映像素材によるPRとして、霧島ジオパークにおける大地と人との関わりを伝える短時間のストーリー動画(加久藤盆地 自然と人が織りなす物語)を製作し、YouTube にアップロードした(写真左)。

12月19日に小林市で開催された霧島ジオパーク講演会では、日本ジオパーク委員会委員長の中田節也氏が「霧島ジオパークは何を目指すか」と題して、ユネスコ世界ジオパークを目指すことへのアドバイスや子どもたちに地域の自然が持つ魅力を伝える大切さなど、具体的な方法を交えての貴重な講演をいただいた(写真右)。

3月1日には、えびの市で「えびの市の風水害に学ぶ防災」と題して、霧島ジオパーク市民講座が開催された。気象予報士・気象防災アドバイザーの栗原ひろ氏が水害の原因、備え、地域で取り組むべき課題など、過去の災害から学び、具体的に災害や現象をイメージできるような取り組みが必要であることなどを参加者へ伝えた。

月日	分類	内容	場所
7/28 ～8/31	協力	国立公園「霧島」90周年パネル展(主催:環境省)	高原町(皇子原公園レストハウス)
8/4	後援	国立公園「霧島」90周年記念 えびの高原山の日イベント2024(主催:えびの市)	えびの市(えびの高原ピクニック広場)
8/6	後援	水の週間イベント「第9回水フェスタ」(ろ過実験等ブース出展)(主催:霧島市)	霧島市(霧島市役所)
8/6	主催	霧島ジオパーク講演会「すごいぞ霧島の水道水」(36名参加) 講師:高嶋 洋 氏(第一工科大学工学部 教授)	霧島市(国分公民館)

9/2 ~30	協力	国立公園「霧島」90周年パネル展・霧島ジオパークパネル展 (主催:環境省)	霧島市(鹿児島空港)
10/1 ~17	協力	国立公園「霧島」90周年パネル展・霧島ジオパークパネル展 (主催:環境省)	霧島市(霧島市役所)
10/5	協力	高原町制施行90周年記念式典「霧島ジオパークパネル展示」 (主催:高原町)	高原町(高原町総合保健 福祉センターほほえみ館)
10/12	出展	宮崎県4市町イベント時ブース出展 「360°動画で見る霧島連山 VR映像体験コーナー」 (都城市:極上和牛と焼酎マルシェ in ニクル)	都城市(「道の駅」都城 NiQLL)
10/19	出展	鹿児島空港空の日フェスティバル「霧島ジオパークパネル展示」	霧島市(鹿児島空港)
10/20	出展	みいけオープンデーやまびこ祭「霧島山立体模型作り、ぬり 絵」(主催:宮崎県御池青少年自然の家)	都城市(宮崎県御池青 少年自然の家)
10/20	出展	宮崎県4市町イベント時ブース出展 「360°動画で見る霧島連山 VR映像体験コーナー」 (高原町:日本発祥地まつり)	高原町(高原町総合運 動公園)
11/3	後援	湧水町高原フェスタ「VR体験、ジオパーク動画放映、パネル展 示等」(主催:湧水町)	湧水町(栗野岳レクリエ ーション村周辺)
11/3	後援	山の日イベント・オウジノオニワ「霧島山立体模型作り」 (主催:奥霧島温泉郷株式会社)	高原町(皇子原公園レ ストハウス)
11/15 ~12/20	協力	国立公園「霧島」90周年パネル展・霧島ジオパークパネル展 (主催:環境省)	えびの市(足湯の駅えび の高原)
11/23	出展	宮崎県4市町イベント時ブース出展 「360°動画で見る霧島連山 VR映像体験コーナー」 (小林市:こばやし秋まつり)	小林市(小林駅前広場)
11/24	出展	宮崎県4市町イベント時ブース出展 「360°動画で見る霧島連山 VR映像体験コーナー」 (えびの市:田の神さあの里産業文化祭)	えびの市(えびの市文化 センター)
12/19	後援	小林市霧島ジオパーク講演会「霧島ジオパークは何を目指す か」(主催:小林市、霧島ネイチャーガイドクラブ 100名参加) 講師:中田節也 氏(日本ジオパーク委員会委員長)	小林市(小林市文化会 館)
2/3~28	協力	鹿児島県内ジオパーク展	鹿児島市(鹿児島県庁)
2/27	後援	ジオ講座 ~魅力的な2つのジオパークを深掘り!~ (主催:桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会)	鹿児島市(鹿児島市役 所)
3/1	後援	霧島ジオパーク市民講座「えびの市の風水害に学ぶ防災」 (共催:えびの市、えびのガイドクラブ 40名参加) 講師:栗原ちひろ 氏(気象予報士・気象防災アドバイザー)	えびの市(飯野地区コミ ュニティーセンター)
3/22 ~6/1	協力	鹿児島県立博物館ジオパーク企画展「ジオパークに行こう!」	鹿児島市(鹿児島県立 博物館)

9 日本ジオパークネットワーク関連会議等への参加



8月の日本ジオパーク全国大会下北大会では、3件のポスター発表（「霧島ジオパークと綾ユネスコエコパークの連携した取り組み」他）（写真左）と、分科会で2件（「ジオパークによる海洋保全活動」、「実験を活用したジオパーク教育の手法と活用」）の取組発表を行った。また、ユニバーサルデザイン関係の分科会では、霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラムのメンバーが活動紹介等を行い、ユニバーサルデザインの目線で議論した。

今回の全国大会には、協議会会長（霧島市長）も参加し、市町村長セッションの場で全国のジオパーク地域の会長と情報共有を行った。

9月にベトナム（カオバンユネスコ世界ジオパーク）で開催されたアジア太平洋地域の国際会議には事務局から2名参加し、2件の口頭発表（「まち歩きで地域の災害レジリエンスを高める取り組み」、「ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた国内ジオパーク統合の試み（桜島・錦江湾ジオパークと共同発表）」）を行い、アジア地域のジオパーク関係者に取組事例の共有を行った（写真右）。

月日	分類	内容	場所／開催方式
5/25	参加	JGN運営会議	千葉県千葉市
6/20	参加	JGC主催ジオパーク基礎研修「ユネスコ世界ジオパークの基礎」	オンライン
6/27	参加	JGC主催ジオパーク基礎研修「ジオパークの誕生と軌跡」	オンライン
7/2	参加	JGC主催ジオパーク基礎研修「ジオパークの審査について」	オンライン
7/4	参加	JGC主催ジオパーク基礎研修「ユネスコ世界ジオパークの活動事例」	オンライン
8/31 ～9/1	参加	第14回日本ジオパーク全国大会下北大会（市町村長セッション、JGC事前相談会、口頭・ポスター発表、分科会）	青森県（むつ市）
9/12 ～15	参加	第8回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム（口頭発表、JGNブース出展 他）	ベトナム
10/1	参加	第1回JGC現地調査員研修会	オンライン
10/16 ～18	視察	桜島・錦江湾ジオパーク再認定現地調査視察	鹿児島市、垂水市、始良市
11/5	参加	JGNオンラインカフェ「サイトの設定・整理」	オンライン
12/8 ～10	参加	第19回日本ジオパーク全国研修会（伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク）「テーマ：持続可能な開発のための人材育成」	静岡県沼津市 他
1/30	参加	第2回JGC現地調査員研修会	オンライン
2/28	参加	第1回JGNオンライン研修会「ネットワークを生かした被災地支援への可能性について」	オンライン
3/18	参加	第2回JGNオンライン研修会「ジオのともだち100人できるかな？」	オンライン

10 ネットワークへの貢献に関する取組



10月5日、大分県大分市のパークプレイス大分において、九州内のジオパーク地域が連携しブース出展を行った。ブースでは、霧島ジオパークの紹介と霧島連山立体模型作りの体験コーナーを設け来訪者に魅力を伝えた(写真左)。

11月12日から14日、南紀熊野ジオパーク主催でジオパーク業務に従事して2年未満のスタッフを対象に初任者研修が行われた。当研修に協議会事務局から1名参加し、ジオパークの基礎を学ぶとともに他地域のジオパーク関係者と交流を行った。

その他、九州内のジオパーク地域で構成する九州ジオパーク連絡会を阿蘇ジオパークの事務局長と霧島ジオパークの専門員が世話人として開催した。

月日	分類	内容	場所
7/23	参加	九州ジオパーク連絡会	オンライン
10/5	参加	パークプレイス大分ジオパークイベント(霧島山立体模型づくりブース出展)(主催:大分県)	大分県大分市(パークプレイス大分)
11/12 ~14	参加	令和6年度ジオパーク初任者研修会 in 南紀熊野	和歌山県(南紀熊野ジオパークセンター)
2/6	参加	九州ジオパーク連絡会	オンライン

11 生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)との連携



11月10日に小林市須木のすきむらんど周辺で「霧島ジオ散歩」を開催した。須木地区には、ジオパークとエコパークのエリアが重なる地域があり、それぞれの特徴を互いのガイド(小林ジオガイドクラブ:渡邊俊輔氏、黒田和則氏・綾町ユネスコエコパーク推進支援員:河野耕三氏)が解説した(写真)。

月日	分類	内容	場所
11/10	主催	霧島ジオ散歩(綾ユネスコエコパークとの連携事業)	小林市(すきむらんど周辺)

12 パートナーシップの推進



霧島ジオパークでは、ジオパークの推進に関する活動を通じて、相互発展と地域の持続可能な発展に寄与することを目的とした、パートナーシップ協定の推進を行っている。

令和6年度は、都城市の株式会社ジーアイエス南九州と協定を締結した。同社は、これまでも霧島山空撮映像や霧島山VR体験コンテンツの制作、霧島ジオパーク関連商品の開発・販売など連携した取り組みを行ってきた民間企業であり、引き続き相互発展につながるような取り組みを行う。

パートナーシップ協定先との主な取り組みとしては、宮崎県御池青少年自然の家が実施している「みりよく発見!! 霧島ジオパーク」全5回シリーズの内、第1回を協議会事務局専門員が講師として対応した(写真左)。また、パートナーが実施するイベント等への協力やパートナー施設を活用したイベント開催(写真右:親子で焼酎工場見学)、パネル展示など、ジオパークの推進に連携した取り組みを行った。

<新規締結先>

- 株式会社ジーアイエス南九州(R7.2.1)

<これまでの締結先>

- 宮崎県御池青少年自然の家(H28.11.17)
- 公益財団法人鹿児島県文化振興財団上野原縄文の森(R4.4.1)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター(R4.4.1)
- 鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター(R4.4.1)
- 霧島酒造株式会社(R4.11.1)
- 一般社団法人霧島コネクト(R4.12.1)
- 環境省九州地方環境事務所(R5.10.1)
- 一般財団法人自然公園財団えびの支部(R5.10.1)

月日	分類	内容	場所
4/23~5/31	協力	上野原縄文の森企画展「地層が語る鹿児島島の歴史～見る・聞く・触る ジオの日～」	霧島市(鹿児島県文化振興財団上野原縄文の森)
6/1	協力	「みりよく発見!!霧島ジオパーク」(再掲)	都城市(宮崎県御池青少年自然の家)
8/20	後援	親子で焼酎工場見学(再掲)	都城市(焼酎の里 霧島ファクトリーガーデン:霧島酒造株式会社)
10/1~31	主催	霧島ジオパーク作品展(再掲)	霧島市(高千穂河原ビジターセンター)
10/20	協力	みいけオープンデー やまびこ祭(再掲)	都城市(宮崎県御池青少年自然の家)
12/2~1/26	主催	霧島ジオパーク作品展(再掲)	えびの市(えびのエコミュージアムセンター)
2/22	協力	防災スプリングフェスタ(再掲)	都城市(宮崎県御池青少年自然の家)

13 課題解決アクションプラン 2023-2026 の進捗状況

エリア拡大新規認定時に指摘のあった課題解決の進捗状況を整理した。

方針	項目	令和6年度終了時点の状況
A 情報共有・交流のしくみづくり	1.定例ミーティング 2.座談会 3.ジオパーク強化合宿	・オンライン定例ミーティングの開催（毎月、構成自治体担当者を対象）。 ・オンライン座談会の開催（隔月、官民関係者を対象）。 ・観光部会時に情報交換会を実施（官民関係者）。
B ジオパークの輪を地域に広げる取り組み	1.地域懇談会・観察会 2.活動発表会・表彰制度	・霧島ジオ散歩の開催（小林市須木）。 ・霧島ジオパーク作品展（ジオパーク賞）。 ・ジオパーク学習発表会の検討。
C ジオパークの輪を日本・世界に広げる取り組み	1.火山地域との共同プロジェクト 2.ジオパーク国際連携	・桜島・錦江湾ジオパークとの共同イベント実施。 ・国際会議（ベトナム）へ桜島・錦江湾ジオパークと共同参加。
D ジオストーリーの再編	1.人のストーリーづくり 2.地域のストーリーづくり 3.PR素材・媒体のリニューアル	・大地の成り立ちから人々の暮らしまで、自然と人が紡いだ霧島ジオパークのストーリーを紹介した「パネル」及び「パンフレット」の制作。
E サイトを守り生かすしくみづくり	1.重要地点の保全活用検討 2.サイト保全活用計画	・新燃岳周辺の自然資源に関する包括的な保全活用方針の集約。 ・サイト保全活用計画策定に向けた、「霧島の自然保護を考えるワークショップ」の開催。
F 教育プログラムの再編・活用	1.教育プログラムの再編・活用	・教育施設等における教育プログラムの集約。 ※令和7年度に霧島ジオパークのホームページへ掲載し、利用者（市内外学校等）が選びやすい仕組みづくりの一つとする。
G ジオツーリズムの収益化	1.体験コンテンツの集約・活用 2.ガイドを含む観光人材の育成	※令和7年度に体験コンテンツの集約、分析、活用方法の検討を観光部会等で行う予定。 ・観光人材育成の取り組みの一つとして、ガイドを対象に「やさしい日本語」（外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語）研修を実施。 ※令和7年度に観光人材育成計画策定予定。
H 効果的な導線設定	1.観光マーケティングの推進 2.利用者目線を意識した環境整備	・山の日イベント実施日における来訪者アンケート調査の実施。今後、観光関係者等へ結果の情報共有をおこない、環境整備に活用していく。
I 運営体制の強化	1.運営体制の再編 2.事務局体制の強化	・部会（保全・教育・観光・防災）再編と運営。 ・令和5年10月から職員派遣開始。 毎年いずれか1つの自治体が職員1名を2年間、協議会事務局（霧島市）に派遣。

※各項目の実施目的等は、令和5年度定例総会時に配布した課題解決アクションプラン2023-2026参照。

14 桜島・錦江湾ジオパークとのエリア統合等に係る協議

1 今年度の両ジオパーク協議について

昨年度定例総会で提示したプロセス項目に基づき、ステージ1～3について計4回協議を行った。

実施日：7月11日(木)、11月20日(水)、12月26日(木)、1月29日(水)

ステージ1	ステージ2	ステージ3
○エリア設定 ○統合目的	○霧島ジオパーク内の合意形成 ○機運醸成(地域との対話)	○予算、負担金の積算
ステージ4	ステージ5	ステージ6
○既存GP内のサイト等を含めた洗い出し(学術的価値)	○統合GPテーマ設定・マップ作成 ○ジオサイト等の検討、選定	○運営体制の検討(組織図等)
ステージ7	ステージ8	ステージ9
○ロゴマーク	○説明板、案内板	○推進計画の策定
ステージ10	ステージ11	ステージ12
○統合後の予算見直し	○パートナーシップの締結、準備	○PR、広報物の作成 ○ホームページ作成

2 ユネスコ世界ジオパーク申請を見据えた両ジオパーク統合目的の整理について(ステージ1関係)

桜島・錦江湾、霧島の両地域における地球遺産の保全と持続可能な地域づくりを推進するため、以下のとおり「目的」と「効果」を整理した。今後はこの整理内容をもとに、関係者及び地域の方々の意見もいただきながら協議を進めていく。

1. 観光

目的：桜島、霧島という双方の活火山地域が持つ観光・教育素材等、または人材について、統合により更なるリソースの充実を図る。さらには統合地域の地理的利点や航空便の就航路線数を活かし、東アジアを代表とする火山観光地を目指す。

効果：統合により観光リソースが充実することに加え、桜島と霧島を一体的に結ぶ広域観光の提供が可能となる。観光ルートや体験プログラムが多様化し、観光客に新たな魅力を提供できる。また海底の火山や陸域火山の山頂まで多様な火山を楽しめる場所となり、他の火山地域には無い価値を持つツーリズムの提供ができるようになる。

2. 教育

目的：統合エリアにおける地域の自然・文化に関する教育プログラムの構築・提供を推進する。また両地域が持つ火山噴火の知見や歴史的経験を生かした防災教育を推進する。さらには、世界の火山地域との交流を促進し、住民(特に子供)の国際感覚の醸成を図る。

効果：統合により、地域の自然や文化多様性が増し、教育分野で利用できる素材が充実する。海外の地域と繋がり交流することで住民の教育活動の幅を広げられるほか国際感覚を養うことにもつながる。

3. 防災

目的：両エリアのもつ火山防災に関する知見や経験を統合により共有し、防災意識や対応力の更なる向上につなげる。また桜島、霧島という活動的な火山地域で行ってきた防災への取り組みを世界の火山地域に共有する。

効果：エリア全体として火山防災に関するリソース(人材、施設、機関など)が更に充実する。また、火山研究・教育の国際的な研究フィールドとなることで、国内外から研究者や学生等さまざまな人材が訪れる地域となる。

4.保全

目的:より多くの人に、地元の場所が国際的にも地球科学的意義のある場所や景観であることを認識してもらい、地球遺産の保全意識の更なる向上を図る。

効果:世界ジオパークへの認定は、地域の自然と文化の価値を国際的に認められることを意味し、住民の地域へ対する誇りの醸成、地球遺産への保全意識向上につながる。

5.研究

目的:桜島・霧島という2つの活火山を有する地域を国際的な火山研究・教育フィールドとして構築・機能させる。海域と山域をもつ両地域が1つになることで多様な自然・文化に関する研究を更に促進する。

効果:火山研究・教育の国際的な研究フィールドとなることで、国内外から研究者や学生等さまざまな人材が訪れる地域となる。また1つの地域となることで、研究データの共有や共同研究の促進が図られ、統合地域ならではの科学的な価値や魅力を発信できるようになる。

<今後の進め方等>

ユネスコ世界ジオパークを目指す目的や効果の検討にあたっては、それぞれのエリア拡大した地域でのジオパーク活動の充実や質の向上に取り組むとともに、関係者及び地域の方々の意見もいただきながら検討を進める。

特に、統合することで地域に与える影響やユネスコ世界ジオパークとしての活動など、多面的な視点で協議・検討を重ね、関係者及び地域の方々に示し、慎重に進める必要がある。

3 統合後の概算負担金の積算(ステージ3関係)

負担金積算のための概算事業費等を試算した。

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| ①過去5年平均合算事業費 | 37,000千円 |
| ②両地域重複経費 | 1,700千円(JGN年会費、APGN旅費、HP維持管理費など) |
| ③専門員人件費(桜島2名 霧島1名) | 16,000千円 |
| ④合計(①-②+③) | 51,300千円(ランニングコスト) |

※専門員人件費は、現在の雇用形態における概算費。

<今後の進め方等>

○上記積算には、統合に伴う一体的な看板作成や拠点施設整備費などのイニシャルコストが含まれていないため、検討が必要。

○統合後の運営体制(事務局職員数等)に要する職員人件費の検討が必要(負担金、職員派遣等)。

➡ 上記内容を検討するにあたり、プロセス項目の見直しが必要である。

令和6年度霧島ジオパーク推進連絡協議会決算書(総括表)

歳入

(単位:円)

費目	当初予算額(A)	補正額(B)	予算現額(C) (A)+(B)=(C)	収入済額(D)	増減額 (D)-(C)
1負担金	10,243,000	0	10,243,000	10,243,000	0
2繰越金	1,222,000	0	1,222,000	1,222,922	922
3諸収入	203,000	0	203,000	598,191	395,191
合計	11,668,000	0	11,668,000	12,064,113	396,113

歳出

(単位:円)

費目	当初予算額(A)	補正・流用額 (B)	予算現額(C) (A)+(B)=(C)	支出済額(D)	不用額 (C)-(D)	
事業費	1報償費	363,000	0	363,000	236,114	126,886
	2旅費	3,368,000	△453,000	2,915,000	1,640,925	1,274,075
	3需用費	1,350,000	425,000	1,775,000	1,774,448	552
	4役務費	24,000	0	24,000	6,088	17,912
	5委託料	3,940,000	△259,000	3,681,000	2,919,840	761,160
	6使用料 及び賃借料	553,000	0	553,000	349,388	203,612
	8負担金補助及 び交付金	1,615,000	191,000	1,806,000	1,798,871	7,129
事業費合計(E)	11,213,000	△96,000	11,117,000	8,725,674	2,391,326	
事務費	3需用費	150,000	24,000	174,000	173,572	428
	4役務費	155,000	0	155,000	154,011	989
	7備品購入費	150,000	72,000	222,000	221,540	460
事務費合計(F)	455,000	96,000	551,000	549,123	1,877	
合計(E)+(F)	11,668,000	0	11,668,000	9,274,797	2,393,203	

収入済額合計	12,064,113	①
支出済額合計	9,274,797	②
差引額	2,789,316	①-②
次年度繰越額	2,789,316	

<県・市町別負担金内訳>

都城市	3,083,000円
高原町	823,000円
小林市	1,344,000円
えびの市	996,000円
霧島市	1,843,500円
曾於市	1,116,500円
湧水町	797,000円
鹿児島県	240,000円
宮崎県	(340,000円)

令和6年度霧島ジオパーク推進連絡協議会決算書(通常予算)

歳入

(単位:円)

費目	当初予算額(A)	補正額(B)	予算現額(C) (A)+(B)=(C)	収入済額(D)	増減額 (D)-(C)	説明
1負担金	9,083,000	0	9,083,000	9,083,000	0	協議会構成5市2町負担金
2繰越金	577,000	0	577,000	577,735	735	
3諸収入	202,000	0	202,000	597,771	395,771	PR物品売上、イベント参加費等
合計	9,862,000	0	9,862,000	10,258,506	396,506	

歳出

(単位:円)

費目	当初予算額(A)	補正・流用額(B)	予算現額(C) (A)+(B)=(C)	支出済額(D)	不用額 (C)-(D)	説明	
事業費	1報償費	363,000	0	363,000	236,114	126,886	各種イベント講師謝金等
	2旅費	2,371,000	△ 452,000	1,919,000	848,780	1,070,220	日本ジオパーク全国大会参加旅費等
	3需用費	1,350,000	425,000	1,775,000	1,774,448	552	公式コースブック増刷等
	4役務費	19,000	0	19,000	3,998	15,002	送料等
	5委託料	3,506,000	△ 259,000	3,247,000	2,719,640	527,360	PR物品制作、HP保守管理業務等
	6使用料及び賃借料	363,000	0	363,000	349,388	13,612	拠点施設設置用VR機器レンタル料等
	8負担金補助及び交付金	1,435,000	190,000	1,625,000	1,618,399	6,601	JGN年会費、学術研究支援補助金等
事業費合計(E)	9,407,000	△ 96,000	9,311,000	7,550,767	1,760,233		
事務費	3需用費	150,000	24,000	174,000	173,572	428	事務消耗品等
	4役務費	155,000	0	155,000	154,011	989	郵送用切手代、送料、振込手数料等
	7備品購入費	150,000	72,000	222,000	221,540	460	マップ収納棚等
事務費合計(F)	455,000	96,000	551,000	549,123	1,877		
合計(E)+(F)	9,862,000	0	9,862,000	8,099,890	1,762,110		

収入済額合計	10,258,506	①
支出済額合計	8,099,890	②
差引額	2,158,616	①-②
次年度繰越額	2,158,616	

<市町別負担金内訳>	
都城市	2,669,000円
高原町	771,000円
小林市	1,209,000円
えびの市	917,000円
霧島市	1,683,000円
曾於市	1,063,000円
湧水町	771,000円

令和6年度霧島ジオパーク推進連絡協議会決算書(特別予算)

歳入

(単位:円)

費目	当初予算額(A)	補正額(B)	予算現額(C) (A)+(B)=(C)	収入済額(D)	増減額 (D)-(C)	説明
1負担金	1,160,000	0	1,160,000	1,160,000	0	協議会構成5市2町等負担金
2繰越金	645,000	0	645,000	645,187	187	
3諸収入	1,000	0	1,000	420	△ 580	預金利息
合計	1,806,000	0	1,806,000	1,805,607	△ 393	

歳出

(単位:円)

費目	当初予算額(A)	補正・流用額(B)	予算現額(C) (A)+(B)=(C)	支出済額(D)	不用額 (C)-(D)	説明	
事業費	2旅費	997,000	△ 1,000	996,000	792,145	203,855	APGN国際会議参加旅費等
	4役務費	5,000	0	5,000	2,090	2,910	振込手数料
	5委託料	434,000	0	434,000	200,200	233,800	総合案内看板
	6使用料及び賃借料	190,000	0	190,000	0	190,000	
	8負担金補助及び交付金	180,000	1,000	181,000	180,472	528	APGN国際会議負担金
合計	1,806,000	0	1,806,000	1,174,907	631,093		

収入済額合計	1,805,607	①
支出済額合計	1,174,907	②
差引額	630,700	①-②
次年度繰越額	630,700	

<県・市町別負担金内訳>	
都城市	414,000円
高原町	52,000円
小林市	135,000円
えびの市	79,000円
霧島市	160,500円
曾於市	53,500円
湧水町	26,000円
鹿児島県	240,000円
宮崎県	(340,000円)

令和6年度 霧島ジオパーク推進連絡協議会決算 不用額調書

1 通常予算

単位(円)

費目		当初予算額 (A)	補正流用額 (B)	予算現額 (C) (A)+(B)=(C)	支出済額 (D)	不用額 (C-D)	不用額理由
事業費	1 報償費	363,000	0	363,000	236,114	126,886	天候不良によるイベント未実施・事務局スタッフが講師を行ったため
	2 旅費	2,371,000	△ 452,000	1,919,000	848,780	1,070,220	天候不良により全国大会への参加人数減のため
	5 委託料	3,506,000	△ 259,000	3,247,000	2,719,640	527,360	一部の事業の外部委託を行わず事務局で実施したため

2 特別予算

単位(円)

費目		当初予算 (A)	補正流用額 (B)	予算現額 (C) (A)+(B)=(C)	支出済額 (D)	不用額 (C-D)	不用額理由
事業費	2 旅費	997,000	△ 1,000	996,000	792,145	203,855	他ジオパーク視察において参加人数が想定より少なかったため
	5 委託料	434,000	0	434,000	200,200	233,800	サイト解説板デザイン改修未実施のため(設置箇所協議中)
	6 使用料及び賃借料	190,000	0	190,000	0	190,000	他ジオパーク視察において、公用車を使用したため

※不用額10万円以上のみ記載

議案第4号

令和6年度 監査結果報告

霧島ジオパーク推進連絡協議会の令和6年度決算書、証拠書類及び関係帳簿等を審査した結果、適正に執行されていることを認める。

令和7年4月30日

霧島ジオパーク推進連絡協議会

監事

川野利光 

((一財)自然公園財団えびの支部・高千穂河原支部所長)

令和7年4月30日

霧島ジオパーク推進連絡協議会

監事

徳重克彦 

((公社)霧島市観光協会会長)

令和7年度霧島ジオパーク推進連絡協議会事業計画(案)

「第2次霧島ジオパーク基本計画」及び「霧島ジオパークアクションプラン 2022-2029」、「霧島ジオパーク・課題解決アクションプラン 2023-2026」に基づき、持続可能な地域社会の発展を実現すべく多種多様な事業を展開する。主要な事業は以下の通りである。

方針1 地域資源を守り生かします(保全・研究)

(1) サイト保全活用計画

概要:環境省と連携し、霧島ジオパークエリア内のサイト保全活用計画策定に向けた取り組みを行う。

時期:通年

(2) 学術研究支援補助事業

概要:霧島ジオパークの地域資源を対象とした調査・研究に要する費用の一部を補助し、霧島ジオパークに関する学術的根拠に基づく資料の蓄積及び研究活動の活性化を図る。

時期:年度末(学術研究発表会)

その他

サイト保全啓発用広告物作製(随時)、保全に関する事業のリスト化(随時)、地域資源の情報収集「ストーリーづくり」(随時)

方針2 地域資源を活用し、活躍する「人」を育みます(普及啓発・教育・人材育成)

(1) Webサイト等を活用した情報発信

概要:霧島山映像コンテンツ機器を活用した情報発信。また、各種イベントチラシ等へのロゴマークやキャラクター使用を推進し、霧島ジオパーク活動の普及啓発を行う。

時期:通年

(2) 公式コースブックリニューアル

概要:拡大エリアの要素を含む公式コースブックのリニューアルを行う。

時期:通年

(3) 副読本等補助教材の製作

概要:郷土について理科・社会の内容を取り入れたジオパーク学習の実施しやすい環境づくりの

支援として、副読本等補助教材の製作を行う。

時期：通年

(4) 観光人材育成方針検討

概要：ガイドとして活動する意欲のある人や観光客と触れ合う機会のある人などの育成に向けた、観光人材育成方針の検討を行う。

時期：通年

その他

夏休み子ども火山スクール(8月)、教職員フィールド研修(7月)、出前講座(随時)、野外活動へのジオガイド派遣(随時)、ガイドのスキルアップ研修(隔月)、ジオパーク学習発表会(3月)

方針3 未来を生き抜く知恵を身につけます(防災・減災)

(1) 火山勉強会

概要：火山専門家を講師として招き、観光・防災・自然保護等様々な分野の関係者向けに実地研修を行い、火山との向き合い方について共に考える場とする。

時期：11月

(2) 霧島ジオパークまちあるきツアー

概要：まちあるきを通して、市民自らが住んでいる街の成り立ちを知るきっかけとし、同時に地形的要因等から生じる災害リスクについても楽しみながら学ぶ機会とする。

時期：随時

その他

自然災害伝承碑の国土地理院地図への掲載推進(随時)、霧島山の火山情報発信(随時)、講演会(随時)、霧島山火山防災協議会への参加(随時)、防災相互応援協定に基づく連携(随時)

方針4 地域資源を活用しやすい環境を整備します(環境整備・観光・地域振興)

(1) 情報発信施設の再設定

概要：各構成自治体の情報発信施設の再設定を行い、周辺サイト等に関する情報発信や施設内でのパネル展示やパンフレットなどを配置し、機能の充実を図る。

時期：通年

(2) 地域のアクティビティ情報等の集約・発信

概要：霧島ジオパーク管内の各種体験コンテンツやジオツアーを集約し、テーマや対象、料金等

のファクターごとに一覧表に整理し、情報発信を行い誘客につなげる。

時期：通年

その他

サイト看板更新(随時)、霧島ジオパーク関連商品の情報発信(随時)、地域資源を活用したイベント等の実施(随時)、ユニバーサルツーリズムの推進(随時)

方針5 霧島ジオパークの活動を持続可能とする運営基盤を整備します(推進体制)

(1) 推進体制の強化

概要：構成自治体からの職員派遣を継続し、事務局体制の強化を図る。

OR6.4～ えびの市(2年間) OR7.4～ 高原町(2年間)

構成自治体のジオパーク担当課は、ジオパーク活動が全庁的に展開されるようなマネジメントを行う。

再編した各専門部会へ民間団体等の協力者を増やし、支援体制の強化を図る。

時期：通年

(2) パートナーシップの推進

概要：霧島ジオパーク活動との連携を深め、相互発展につながるような取り組みを行う。また、引き続き地域団体や企業等とのパートナーシップ協定を推進する。

時期：通年

方針6 他地域等とのネットワークを活用し、相互に向上を図ります(ネットワーキング)

(1) 全国大会・全国研修会等への参画

概要：ジオパークネットワークの開催する全国大会や全国研修会等へ参画し、取組発表や情報交換を行い、他ジオパークとの交流を通じて得た経験や知見を霧島ジオパークの活動につなげていく。

時期：随時

(2) 他ジオパークとの連携

概要：九州ジオパーク連絡会での相互交流を通じて、連携した事業の検討を行う。

時期：随時

(3) 生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)との連携

概要：エリアが重複する綾ユネスコエコパークとの相互発展につながるような連携事業を行う。

時期：随時

(4) 桜島・錦江湾ジオパークとのエリア統合等に係る協議

ユネスコ世界ジオパークを目指す目的や効果の検討にあたっては、それぞれのエリア拡大した地域でのジオパーク活動の充実や質の向上に取り組むとともに、関係者及び地域の方々の意見もいただきながら検討を進める。

特に、統合することで地域に与える影響やユネスコ世界ジオパークとしての活動など、多面的な視点で協議・検討を重ね、関係者及び地域の方々に示し、慎重に進める必要がある。

○プロセス項目の見直し

予算や負担金の積算には、運営体制（事務局職員数等）も併せて検討していく必要があることから、プロセス項目の見直しを行う。

（参考：以下、昨年度定例総会提示内容）

ステージ1	ステージ2	ステージ3
○エリア設定 ○統合目的	○霧島ジオパーク内の合意形成 ○機運醸成(地域との対話)	○予算、負担金の積算
ステージ4	ステージ5	ステージ6
○既存GP内のサイト等を含めた洗い出し(学術的価値)	○統合GPテーマ設定・マップ作成 ○ジオサイト等の検討、選定	○運営体制の検討(組織図等)
ステージ7	ステージ8	ステージ9
○ロゴマーク	○説明板、案内板	○推進計画の策定
ステージ10	ステージ11	ステージ12
○統合後の予算見通し	○パートナーシップの締結、準備	○PR、広報物の作成 ○ホームページ作成

○統合目的・効果等の整理

統合しユネスコ世界ジオパークで何ができるのか、関係者及び地域の方々の意見もいただきながら引き続き検討するとともに、地域への効果や財政的、人的負担などの可視化を行う。

○機運醸成(地域との対話)の取組

関係者や地域の方々に、両ジオパークに通じるストーリーや地質的価値、ジオパークのプログラムをより理解してもらうための取り組みを行う。

○統合後の概算負担金の積算

イニシャルコスト(一体的な看板整備費等)やランニングコスト(統合後の運営体制(事務局職員数等)に要する職員人件費、各自治体の負担割合など)について検討を行う。

○霧島ジオパーク内の合意形成

桜島・錦江湾ジオパークとのエリア統合については、引き続き統合目的や概算負担金などの協議を両事務局間等で進め、それらの内容を基に今後の定例総会で諮る。

＜図.霧島ジオパークのこれまでのあゆみ＞

ジオパーク申請・認定関係	年度	イベント主催関係
霧島ジオパーク推進連絡協議会発足	2008(H20)	
日本ジオパーク申請延期	2009(H21)	
日本ジオパーク申請・認定	2010(H22)	宮崎県南部口蹄疫被害
	2011(H23)	新燃岳 2011年噴火
	2012(H24)	
世界ジオパーク推薦申請・認定見送り	2013(H25)	日本ジオパーク全国研修会開催
日本ジオパーク再認定	2014(H26)	
	2015(H27)	日本ジオパーク全国大会開催
世界ジオパーク推薦申請・認定見送り	2016(H28)	新燃岳 2017年噴火
	2017(H29)	
日本ジオパーク再認定	2018(H30)	桜島・錦江湾ジオパークとの統合に関する協議の開始
新燃岳, えびの高原 2018年噴火	2019(R01)	
	2020(R02)	日本ジオパーク認定10周年記念
	2021(R03)	
日本ジオパークエリア拡大申請・認定	2022(R04)	
	2023(R05)	
	2024(R06)	
	2025(R07)	
日本ジオパーク再認定審査(予定)	2026(R08)	

令和7年度 霧島ジオパーク推進連絡協議会当初予算案(総括表)

歳入

単位:千円

費目	令和7年度 当初予算	令和6年度 当初予算	増減	説明
1負担金	9,806	10,243	△ 437	
2繰越金	2,789	1,222	1,567	
3諸収入	331	203	128	
合計	12,926	11,668	1,258	

歳出

単位:千円

費目	令和7年度 当初予算	令和6年度 当初予算	増減	説明	
事業費	1 報償費	450	363	87	
	2 旅費	3,088	3,368	△ 280	
	3 需用費	1,210	1,350	△ 140	
	①消耗品費	220	100	120	
	②燃料費	40	0	40	
	③印刷製本費	950	1,250	△ 300	
	4 役務費	57	24	33	
	③手数料	23	14	9	
	④保険料	34	10	24	
	5 委託料	5,737	3,940	1,797	
	6使用料及び 賃借料	673	553	120	
8負担金補助及び 交付金	1,396	1,615	△ 219		
事業費計	12,611	11,213	1,398		
事務費	3 需用費	150	150	0	
	①消耗品費	150	150	0	
	4 役務費	165	155	10	
	①通信運搬費	125	125	0	
	③手数料	40	30	10	
7備品購入費	0	150	△ 150		
事務費計	315	455	△ 140		
合計	12,926	11,668	1,258		

歳入歳出差引残金なし

令和7年度 霧島ジオパーク推進連絡協議会当初予算案(通常予算)

歳入

単位:千円

費目	令和7年度 当初予算	令和6年度 当初予算	増減	説明
1負担金	9,083	9,083	0	協議会構成5市2町負担金
2繰越金	2,159	577	1,582	
3諸収入	330	202	128	PR物品売上金、イベント参加費等
合計	11,572	9,862	1,710	

歳出

単位:千円

費目	令和7年度 当初予算	令和6年度 当初予算	増減	説明	
事業費	1 報償費	450	363	87	イベント時講師謝金等
	2 旅費	2,788	2,371	417	JGN全国大会・その他会議等参加旅費
	3 需用費	1,170	1,350	△ 180	
	①消耗品費	220	100	120	イベント等時物品、環境保全普及啓発用物品
	③印刷製本費	950	1,250	△ 300	トレッキングマップ、リーフレット増刷等
	4 役務費	43	19	24	
	③手数料	9	9	0	イベント等出展手数料
	④保険料	34	10	24	ジオパーク保険
	5 委託料	4,797	3,506	1,291	副読本等製作業務委託、コースブック作成、ホームページ管理業務等
	6使用料及び賃借料	613	363	250	映像コンテンツ使用料、バス借上げ料等
8負担金補助及び交付金	1,396	1,435	△ 39	学術研究支援補助、JGN会費、JGN関連行事参加負担金等	
事業費計	11,257	9,407	1,850		
事務費	3需用費	150	150	0	
	①消耗品費	150	150	0	事務消耗品等
	4役務費	165	155	10	
	①通信運搬費	125	125	0	荷物送料等
	③手数料	40	30	10	振込手数料等
7備品購入費	0	150	△ 150		
事務費計	315	455	△ 140		
合計	11,572	9,862	1,710		

歳入歳出差引残金なし

令和7年度 霧島ジオパーク推進連絡協議会当初予算案(特別予算)

歳入

単位:千円

費目	令和7年度 当初予算	令和6年度 当初予算	増減	説明
1負担金	723	1,160	△ 437	協議会構成5市2町及び県負担金
2繰越金	630	645	△ 15	
3諸収入	1	1	0	預金利息
合計	1,354	1,806	△ 452	

歳出

単位:千円

費目	令和7年度 当初予算	令和6年度 当初予算	増減	説明	
事業費	2 旅費	300	997	△ 697	他ジオパーク現地調査視察
	3 需用費	40	0	40	
	②燃料費	40	0	40	他ジオパーク現地調査視察燃料費
	4 役務費	14	5	9	
	③手数料	14	5	9	振込手数料
	5 委託料	940	434	506	サイト看板更新業務等
	6使用料及び賃借料	60	190	△ 130	高速道路及び駐車場等使用料
	8負担金補助及び交付金	0	180	△ 180	
事業費計	1,354	1,806	△ 452		
合計	1,354	1,806	△ 452		

歳入歳出差引残金なし

令和7年度 霧島ジオパーク推進連絡協議会当初予算案(総括表) 構成市町負担金積算額

(単位:円)

市町名	令和6年度						
	令和7年度 負担金額合計 (A)+(B)=(C)	対支出確定額		対当初予算編成時の額		増減 (C)-(E)	
		通常予算分 負担金額 (A)	特別予算分 負担金額 (B)	負担金額 (D)	増減 (C)-(D)		負担金額 (E)
都城市	2,669,000	258,000	3,083,000	△ 156,000	3,083,000	△ 156,000	
高原町	771,000	32,000	823,000	△ 20,000	823,000	△ 20,000	
小林市	1,209,000	84,000	1,344,000	△ 51,000	1,344,000	△ 51,000	
えびの市	917,000	50,000	996,000	△ 29,000	997,000	△ 30,000	
霧島市	1,683,000	100,000	1,843,500	△ 60,500	1,844,000	△ 61,000	
曾於市	1,063,000	33,500	1,116,500	△ 20,000	1,116,500	△ 20,000	
湧水町	771,000	16,000	797,000	△ 10,000	797,000	△ 10,000	
鹿児島県		149,500	240,000	△ 90,500	240,500	△ 91,000	
(宮崎県)		(212,000)	(340,000)	△ 128,000	(340,500)	△ 128,500	
合計	9,083,000	723,000	10,243,000	△ 437,000	10,245,000	△ 439,000	

※鹿児島県は、特別分にかかる鹿児島県内構成市(霧島市、曾於市、湧水町)の負担金に対し、1/2に相当する金額を負担金として計上予定。

※宮崎県は、特別分にかかる宮崎県内構成市町(都城市、高原町、小林市、えびの市)の負担金に対し、1/2に相当する金額を市町への補助金として計上予定。

※「令和6年度当初予算編成時の額」とは、各団体が令和6年度当初予算に計上している額

令和7年度 霧島シオパーク推進連絡協議会当初予算案(通常分) 構成市町負担金積算額

(単位:円)

市町名	負担金総額				9,083,000				円				負担金額 端数調整後 (千円)	令和6年度			
	均等割(20%)		人口割(80%)		金額(B)	小計	職員調整 一律500,000円	調整後小計	対支出確定額		対当初予算編成時の額			負担金額 (F)	増減 (E)-(F)	負担金額 (G)	増減 (E)-(G)
	金額(A)	人口(人)	金額(A)	人口(人)					負担金額	金額(D)	(C)+(D)	増減					
	1,216,600	4,866,400	4,866,400	160,640	1,995,224	6,083,000	500,000	2,669,024	2,669,000	0	2,669,000	0		2,669,000	0		
都城市	173,800	160,640	0.41	160,640	2,169,024	500,000	2,669,024	2,669,000	0	2,669,000	0	2,669,000	0				
高原町	173,800	8,639	0.02	8,639	97,328	500,000	771,128	771,000	0	771,000	0	771,000	0				
小林市	173,800	43,670	0.11	43,670	535,304	500,000	1,209,104	1,209,000	0	1,209,000	0	1,209,000	0				
えびの市	173,800	17,638	0.05	17,638	243,320	500,000	917,120	917,000	0	917,000	0	917,000	0				
霧島市	173,800	123,135	0.31	123,135	1,508,584	0	1,682,384	1,683,000	0	1,683,000	0	1,683,000	0				
曾於市	173,800	33,310	0.08	33,310	389,312	500,000	1,063,112	1,063,000	0	1,063,000	0	1,063,000	0				
湧水町	173,800	9,119	0.02	9,119	97,328	500,000	771,128	771,000	0	771,000	0	771,000	0				
合計	1,216,600	396,151	1.00	396,151	6,083,000	3,000,000	9,083,000	9,083,000	0	9,083,000	0	9,083,000	0				

※人口=令和2年度国勢調査による

※負担金積算方法

- 1 負担金総額から職員調整額(霧島市専門員採用負担金)3,000千円を差引く
- 2 差し引いた額から2割分を均等割で算出
- 3 差し引いた額から8割分を人口割で算出
- 4 均等割と人口割に職員調整額(500千円)を加え負担金額を算出(霧島市以外)

※「令和6年度当初予算編成時の額」とは、各団体が令和6年度当初予算に計上している額

=	6,083,000
=	1,216,600
=	4,866,400

令和7年度 霧島シオパーク推進連絡協議会当初予算案(特別分) 構成市町負担金積算額

(単位:円)

市町名	負担金総額				723,000			円			令和6年度		
	均等割(20%)		人口割(80%)		金額(B)	小計	金額(A)	人口(人)	負担金率(%)	対支出確定額		対当初予算編成時の額	
	金額(A)	人口(人)	金額(B)	小計						負担金額	増減	負担金額	増減
	144,600	578,400	723,000	723,000	(A)+(B)=(C)	(F)	(E)-(F)	(G)	(E)-(G)				
都城市	20,657	160,640	0.41	237,144	257,801	20,657	160,640	0.41	414,000	△ 156,000	414,000	△ 156,000	
高原町	20,657	8,639	0.02	11,568	32,225	20,657	8,639	0.02	52,000	△ 20,000	52,000	△ 20,000	
小林市	20,657	43,670	0.11	63,624	84,281	20,657	43,670	0.11	135,000	△ 51,000	135,000	△ 51,000	
えびの市	20,657	17,638	0.05	28,920	49,577	20,657	17,638	0.05	79,000	△ 29,000	79,000	△ 30,000	
霧島市	20,657	123,135	0.31	179,304	199,961	20,657	123,135	0.31	160,500	△ 60,500	161,000	△ 61,000	
曾於市	20,657	33,310	0.08	46,272	66,929	20,657	33,310	0.08	53,500	△ 20,000	53,500	△ 20,000	
湧水町	20,657	9,119	0.02	11,568	32,225	20,657	9,119	0.02	26,000	△ 10,000	26,000	△ 10,000	
鹿児島県									149,500	△ 90,500	240,500	△ 91,000	
(宮崎県)									(212,000)	△ 128,000	(340,500)	△ 128,500	
合計	144,599	396,151	1.00	578,400	722,999	723,000	396,151	1.00	1,160,000	△ 437,000	1,162,000	△ 439,000	

144,600
578,400

723,000 × 0.2 =

723,000 × 0.8 =

※人口=令和2年度国勢調査による
 ※負担金積算方法
 1 総額から2割分を均等割りて算出
 2 総額から8割分を人口割りて算出
 ※「令和6年度当初予算編成時の額」とは、各団体が令和6年度当初予算に計上している額。